

病院広報誌に求められる 2つの役割とその具現化

医療法人社団東山会

広報課 高柳志歩

(広報誌制作担当)

経営企画部長 福垣順三

理事長 小川聰子

医療法人社団東山会の広報誌「東山だより」(図表1、2、写真1)は、広報課が2016年5月のリニューアル創刊号から企画、編集、印刷発注までの実務を一手に担っています。「どのようにして“東山だより”をリニューアル創刊したのか」、「“東山だより”への想い」などを紹介します。

1. 広報誌のイメージ固め

「東山だより」をリニューアル創刊するにあたり、理事長、院長といった経営幹部だけでなく、患者さまへのメッセージ発信に关心のありそうな職員に「どんな広報誌にしたいか」を聞いてまわりました。要望を集約すると、次の4つでした。

- ①ハンドバッグに入るサイズがいい
- ②イラストが多く、明るく温かい誌面にしてほしい
- ③患者さまの目線に立った内容にしてほしい

④地域とのつながりを伝えてほしい

そこで、この4つの要望に応えるために、以下のことに取り組みました。

- ①サイズについてはA4判の変形である21cm×21cmに決めました。ハンドバッグにも入り、かつ誌面の広さを確保できるからです。さらに、印刷時に別途裁断費用もかかりませんでした。
- ②誌面のレイアウトやデザイン、イラスト作成を外部のデザイン会社に外注することを考えましたが、コストの制約もあり、すべて自作することになりました。
- ③患者さまの目線に立った内容とはどんな

病院概要

名 称	医療法人社団東山会 調布東山病院
所在地	東京都調布市小島町2-32-17
電 話	042-481-5511
病床数	一般83床、透析66床
H P	https://www.touzan.or.jp/

医療法人社団東山会は、調布東山病院(83床、7対1急性期、非DPC)と、透析専門クリニック2院からなります。調布東山病院の病床稼働率は90.6%、1日あたり外来患者数346人。透析センター、内視鏡センター、ドック健診センター、訪問看護ステーションを併設。

法人収益は47億円、医業利益1.6億円、常勤換算職員数375人(いずれも2016年度実績)。調布東山病院がある調布市は、人口23万人、面積21.6km²。半径2.6km圏内に23万人が住んでいます。調布東山病院の患者の75%は調布市民。

図表1 東山だよりの概要

サイズ	A4変形判 (21cm×21cm) 16頁
発刊頻度	年4回
発行部数	2,000部
リニューアル創刊	2016年5月1日
制作コスト (印刷代)	7万円 (印刷のみ外注) ※患者さまからの声に対する回答をまとめた冊子 (12頁) を差し込む場合は14万円



写真1 職員が表紙を飾る「東山だより」。イラスト表紙の号より、多くの患者さまが手に取ってくれる

図表2 東山だより最新号の主な構成

ページ1 (表紙)	特集に関連した医師の写真
ページ2～5	(特集) 世界糖尿病デーの紹介と糖尿病内分泌内科の熊谷医師へのインタビュー
ページ6	「調布東山病院栄養科『東山3スタイル』」糖尿病対策レシピ
ページ7	「調布東山病院リハビリ科からこんにちは」椅子スクワットの紹介 など
ページ8	調布東山病院における世界糖尿病デー関連イベントの紹介
ページ9	「教えて医療ソーシャルワーカー 医療のこと 介護のこと」在宅医療～訪問診療～
ページ10	「クロスワードパズル」感染症予防クロスワードパズル 手の正しい洗い方
ページ11	調布東山病院公認キャラクター「きたみん」の紹介
ページ12	「東山会 活動日記」「季節の植物図鑑」10月のイベント報告など
ページ13	患者さま満足度アンケート結果報告
ページ14～15	「ちょうどの医療人」調布市医師会・佐々木会長のインタビュー
ページ16 (裏表紙)	連絡先や編集後記など

内容なのか、今も模索中ですが、病院の伝えたい事柄を一方的に列挙するだけの誌面にはしたくないと思いました。

そこで、患者さまにとって有益な、医療知識や健康に役立つ情報を“読み物”としてお届けするページを多くとりました。また、この“読み物”には、職員一人ひとりの思いやエピソードも盛り込み、東山会の“誠実さや温かさ”が伝わるページづくりを目指すこととしました。

④東山会は地域密着型の医療機関として、“その人らしく笑顔で生き生きる街づくり”を目指しています。地域連携の促進、地域の医療・介護職従事者とともに勉強会

やイベントの開催、お祭りへの参加と、積極的な院外活動を展開していますので、こうした取り組みや地域のネットワークを伝えるページを設けました。また、医療・福祉情報一色になりがちな誌面を和ませてくれる“地域で愛されるおいしいお店”を紹介したりと、毎号、柔軟に変化させるページとしました。

2. 東山だより 制作フロー

「東山だより」制作フローは下記のとおりです。

①企画 ⇒ ②ラフ作成 ⇒ ③取材依頼、取材、撮影 ⇒ ④原稿依頼 ⇒ ⑤執筆

トップが考える広報誌の役割 ～リニューアルした「東山だより」について～

医療法人社団東山会 理事長 小川聰子

広報誌の役割は2つあります。1つめは職員に対するもので、自分たちや法人の取り組みを客観的に把握する役割です。職員一人ひとりが患者さまや職員のために一生懸命取り組んでいる姿やその想いを発信することにより、頑張っている仲間がいることに勇気づけられます。自分ももっと動いていいんだというメッセージを受け取り、自発的に動いてくれる職員が増えてきました。それが自信になって、次の行動につながっていくという好循環を育んでいます。

2つめは、患者さまや地域の医療機関、介護事業所、地域住民、行政といったステークホルダーに当院のことを知っていただく役割です。当院でできることを知っていただき、うまく使っていただく。そのためには相手の記憶に残る誌面にしていく必要があると考えています。

振り返ってみると「東山だより」リニューアル前は、自分たちのやりたいことや医療技術を中心伝えているように思います。しかし、リニューアル後は、いつも読者目線で企画編集していることに加え、取材で人の想いを引き出し、想いに焦点をあてているからこそ伝わるのだと思います。

「東山だより」を持って診察に来られる患者さまも多く、記事に対する意見や感想を言ってくれます。持って歩いて友達に説明している患者さまもいます。自然に話すきっかけができることで、笑顔があふれています。

⇒ ⑥イラスト作成 ⇒ ⑦レイアウト

⇒ ⑧校正 ⇒ ⑨印刷会社へ入稿

①企画

病院の方針、他部署のスタッフの声を大切に、その号に掲載するトピックスを広報課メンバーで考えます。それらをどのように見せると患者さまが興味を抱き、読みやすい誌面になるかも考えます。

例)【医事課からの声】市内の休日・夜間診療について知らない患者さまが多い
→休日・夜間診療は調布市と医師会の取り組みなので、地域情報ページで調布市医師会長のインタビュー記事と一緒に紹介しよう。

また、大きなトピックを特集テーマに決定します。その特集で特に何を伝えたいかを考え、内容や見せ方を詰めます。

例) 2017年11月19日、世界糖尿病デー関連イベントを開催（写真2）
→イベント告知や世界糖尿病デーに関する



写真2 左上のイベント告知のチラシだけでなく、主催した医師のインタビューを通じてイベントの意義を伝える特集にした。左下の栄養科やリハビリ科の連載ページも糖尿病をテーマにした内容

る知識だけでなく、このイベントを東山会で開催するに至った“過程”や“理由”を患者さまに理解してもらえば、イベントの意義がより高まるだろう。そのためには、イベントの中心人物である医師の生い立ち、思い、活動内容、信念などを深掘りするインタビュー記

事にしよう。

②ラフ作成

企画で決まったトピックスを誌面にどう配置するか、手書きのラフを作成します。大まかな文字の位置、写真の配置なども考え、文字数や撮影時にどんなカットが必要かを把握します。

③取材依頼、取材、撮影

取材対象者と記事の目的や方向性を共有しながら、取材協力を仰ぎます。東山会の職員や地域の方々は広報誌の取材にとても協力的です。事前に下調べを済ませ、取材当日は対象者に楽しく話していただけるよう明るく対応します。

撮影はなるべく時間がかかるないよう、あらかじめ撮影場所やポーズなどを考えておきます。当院には、写真好きの職員が集う写真部があります。メンバーの医局秘書が撮影を担当してくれ、回を重ねるごとに撮影が上達しています。

当初は撮影に抵抗のある職員が多かったのですが、次第に楽しげに応じてくれるようになりました。

④原稿依頼

記事の目的や文字数、縮め切りを記載した依頼書を用意して執筆依頼します。また、執筆の参考になりそうな資料を見ついたら届けます。担当者の負担が大きくなないように、希望がある場合は代筆する場合もあります。

⑤執筆

自分の担当分の執筆をします。分かりやすい言葉遣いを心掛け、あえて漢字を減らして柔らかい文面を目指します。また、見

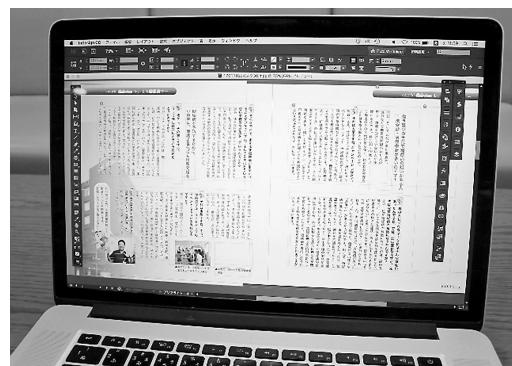


写真3 楽しげで読みたくなるようなレイアウトを心掛けています

出しやコピーも考えます。

例) 下さい。→ください。

参ります。→まいります。

⑥イラスト作成

原稿がだいたいそろったところで、文章を楽しく彩り、内容理解の手助けとなるイラストを用意します。ネット上の商用利用が可能なフリー素材を利用したり、自分で作成しています。自分で作成する場合はイラストレーター（イラスト作成用ソフト）を使って作成しています。

⑦レイアウト

インデザイン（レイアウト用ソフト）で、21×21cm×16ページのドキュメントをつくっておきます（写真3）。そこに、原稿やイラストを配置し、罫線などの装飾を施していきます。写真は、フォトショップ（写真編集用ソフト）で色味を調整したり、必要があれば切り抜くなどの加工をして、インデザイン上に配置します。

⑧校正

完成したデータをプリントして、色味を確認します。また、理事長、執筆者、広報

課メンバーなどに校正を依頼して、内容に間違いないか、何度も確認をします。

⑨印刷会社へ入稿

インデザインで作成したデータをPDF／X-4（印刷用途向けのPDF規格）に変換します。その際、印刷所が指定する“トンボ”や“裁ち落とし”（裁断ラインや印刷範囲）などを設定します。

「東山だより」はネット上で入稿する印刷会社を利用しているので、ネット上でデータを送って入稿完了です。約6日後に納品されます。

3. 制作環境について

病院の事務部門で使用しているワープロや表計算などのoffice系ソフトでは、レイアウトやデザインに限界があります。広報課で制作まで手掛けるには制作環境を整えることがとても大切です。

そこで、編集ソフトのAdobe Creative Cloudを導入し、その中に含まれるインデザイン、イラストレーター、フォトショップを、主に広報誌制作に利用しています。

また、株式会社モリサワが提供する書体ソフト（フォント）も導入してもらい、パソコンはMacBook Pro 15インチ、500GBを使用しています。環境整備には費用がかかるため、まだ実績のない担当者からは申し出がしにくかったのですが、システム部門から積極的な提案もあり、制作環境を整えることができました。

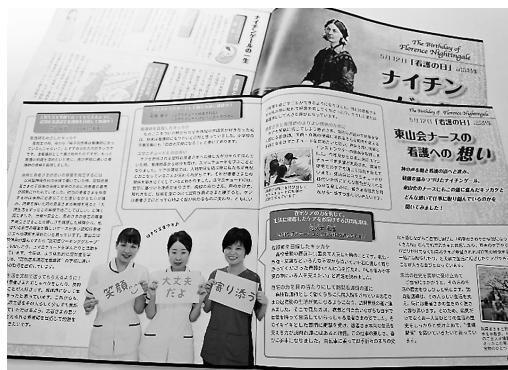


写真4 特集「ナインゲールの誕生日」
では、神の声を聞き看護の道に進んだナインゲールの紹介にからめ、東山会のナースがこの道に進んだキッカケとどんな思いで仕事に取り組んでいるかを記事に。登場してもらったナースには、患者さまからの反響があったそうです

4. 誠実さ、温かさがにじみ出る誌面づくりに向けて

患者さまに対する東山会の“誠実さ、温かさ”がにじみ出る誌面づくりを心掛けています。患者さまの目線で考えると、医療機関を信頼するうえで“医療技術の高さ”はもちろんのこと、“法人や代表者、職員の誠実さ、温かさ”も重要なと思います。

受診時でも、職員の話し方・対応などでそれは伝わるかもしれません、診察室では伝えきれない法人、代表者、職員一人ひとりが“患者さまをどのように思い、医療にどれだけ真摯に向き合っているか”を言葉にして掲載できればと願っています（写真4）。